

Flash Memory Scales AI Inference

Investor Day

キオクシアホールディングス株式会社

2026年6月2日

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved.

KIOXIA

Agenda

1. AI推論時代におけるキオクシアの成長戦略

社長執行役員
太田 裕雄

2. フラッシュメモリ市場と資源投入

常務執行役員 戦略統括責任者
矢口 潤一郎

3. SSDが牽引する推論AI

常務執行役員 SSD事業部長※1
横塚 賢志

4. 第10世代BiCS FLASH™における テクノロジーリーダーシップ

執行役員 メモリ事業部長※2
井上 敦史

5. 成長を実現させる財務戦略

副社長執行役員 財務統括責任者
河村 芳彦

6. 質疑応答

KIOXIA

※1 キオクシア株式会社の常務執行役員 SSD事業部長
※2 キオクシア株式会社の執行役員 メモリ事業部長

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 2

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性がありますのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

本資料には、経営者が意思決定する際に使用する社内指標（Non-GAAP指標）が含まれています。Non-GAAP指標は、IFRS上の数値から非経常的な項目を調整したものです。Non-GAAP指標は、当社グループの経営上の社内指標であり、IFRSに基づく会計項目ではなく、また、監査法人の監査又は期中レビューを受けた数値ではありません。そのため、当社グループの実際の財政状態や経営成績を正確に示していない可能性があります。

なお、本資料は、当社の2026年6月2日のInvestor Dayのために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

また、本資料に記載されている当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本資料の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、地政学的要因、米国の関税政策を含む経済状況の変化、半導体メモリ市況の変化及び他社との競争、サプライチェーンの混乱、工場の操業停止、為替及び金利など金融市場の変動、半導体事業に係る政策変更等により、本資料の内容又は本資料から推測される内容と大きく異なることがあります。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

AI推論時代におけるキオクシアの成長戦略

社長執行役員 太田裕雄

社長の太田でございます。本日はお忙しい中、当社のInvestor Dayにご参加いただき誠にありがとうございます。私からは、生成AIの急速な普及が、私たちの業界に大きな地殻変動をもたらす中、AI時代のデータインフラを支えるフラッシュメモリを提供する当社が、この変革期においていかに市場の要請に応え、持続的な成長を実現していくのか、その戦略についてご説明します。

Agenda

- 推論AIにおけるフラッシュメモリの役割拡大
- データセンター・エンタープライズ市場への注力
- さらなる企業価値向上に向けた成長投資

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 5

私からは、こちらの内容をお話させていただきます。

この1年間の振り返り

AIデータセンター需要の拡大により、当社企業価値は30倍以上に

当社株価推移



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 6

昨年6月の経営方針説明会では、「フラッシュメモリは、もはや単なるデータの保管庫ではなく、AIシステム全体のパフォーマンスを左右する極めて重要な存在となる」との、今後の見通しを申し上げました。

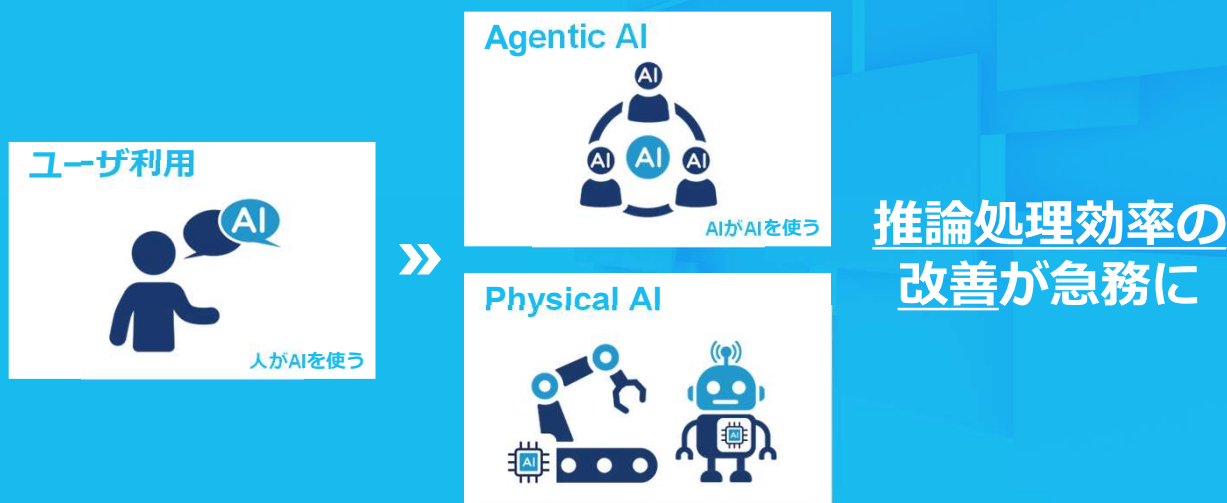
この1年でその見通しは実際の需要として顕在化し、現在の株価は、まさにこのAI需要を的確に捉えた当社の戦略に対する、資本市場からの評価と信頼の表れであると理解しています。

その背景としては、データセンターへの投資は2024年から増加傾向でしたが、とりわけ2025年後半以降は生成AIの活用が「学習」から「推論」へとシフトする中で、ストレージの重要性が改めて強く認識されました。

結果として、AIデータセンター向けの需要は力強く拡大しており、フラッシュメモリ市場は活況を呈しています。当社としては、この状況が2027年も継続すると見込んでいます。

推論ワークロードの急増

自律的に課題解決するAgentic AI、Physical AIにより、推論ワークロードは加速度的に増加



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 7

2025年後半からは、AIがLLMを作成する「学習」中心の段階から、社会実装される「推論」へと移行しています。

さらに、AIは単に人間が使う「道具」から、エージェントAIやフィジカルAIに代表される、自らデータを参照し目標を達成する「自律的なエージェント」へと進化していきます。

このトレンドにより、AIが実行する推論の処理量が爆発的に増加すると見えています。この「推論」フェーズで重要となるのが、計算速度、データ処理能力、消費電力を含めたTCO、すなわち総所有コストです。膨大な推論処理をいかに経済的かつ効率的に実行するかが鍵となります。

そのため外部知識を活用するRAGや、過去の推論結果を再利用するKVキャッシュといった技術が日進月歩で進化しています。

ただし、これらの進化がもたらす新たなメモリへの膨大な要求を、HBMだけで対応することは困難です。

とりわけAIの活用が、ローカルでのデータ処理を前提とするエッジ領域へと広がる中で、低消費電力かつ高速なストレージの重要性は、かつてないほど高まっています。フラッシュメモリこそが、これらのさまざまな市場の要求に応え、推論システムをTCOの観点から経済的にスケールできる唯一の記憶媒体であると考えています。

NVIDIAの提唱するGPU接続ストレージ

SSDをGPUの拡張メモリ階層として再定義する構想

推論GPUサーバー



推論の効率化(KVキャッシュ)
過去の計算結果の記憶

2026年～

Context Memory
Storage(CMX)

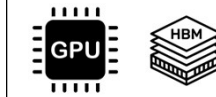
GPUのメモリ領域を
拡張

2027年～

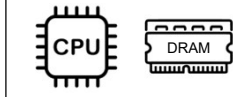
NVIDIA Storage-Next™

RAGサーバー：知識の記憶で回答精度Up

DB生成



DB検索



ストレージサーバー：爆増する生成結果の記憶



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 8

このような流れを受け、次世代のAIネイティブ・ストレージの実現に向け、今、エコシステム全体を巻き込んだ議論が活発化しています。

その議論の中心であり、当社の重要なパートナーであるNVIDIAは、ストレージを単なる記憶装置ではなく「GPUの拡張メモリ階層」として再定義する構想を提唱しています。

「推論処理の効率化」のために、過去の計算結果（KVキャッシュ）を記録するメモリ階層としてSSDを活用する「CMX (Context Memory Storage) Platform」、 「回答精度の向上」のために、外部知識を記憶するRAGサーバーにおいても、SSDを拡張メモリとして活用する「NVIDIA Storage-Next™」がそれにあたります。

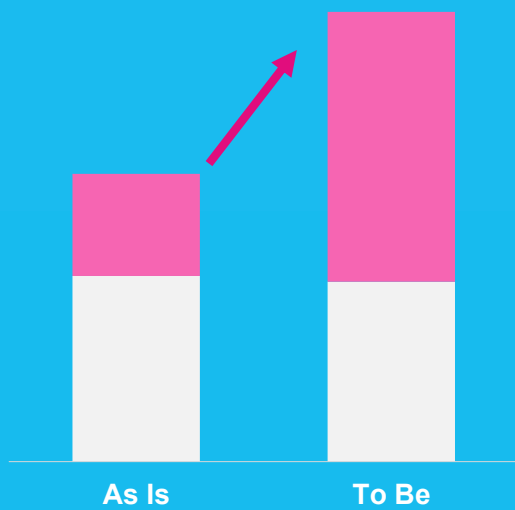
また、ストレージサーバーに格納される生成結果についても加速度的に増加が見込まれます。

このような動きが意味することは、AIシステムにおいて、GPUとHBMに並び、ストレージはAIシステムの性能を決定づける中核となる構成要素であるということです。

当社は、フラッシュメモリ・SSDのスペシャリストとして、これらの構想に対して様々な技術・ソリューションを積極的に提案し、パートナーと共にこのAIのパラダイムシフトをリードしてまいります。

データセンター・エンタープライズ市場向けへの注力

キオクシア販売ポートフォリオ サンディスク売上高を除く



データセンター・エンタープライズ市場
向け製品の売上比率

60%以上

Super High IOPS SSDなどの
付加価値製品をマーケットフィットさせ、
収益体質も向上

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 9

このような市場構造の変化がもたらす機会を捉えるため、当社は事業ポートフォリオを戦略的にシフトしていくことを計画しています。

まず、データセンター・エンタープライズ事業への注力です。中長期的には売上比率を60%以上へ引き上げる方針です。標準化された製品における競争力は維持・向上させつつ、Super High IOPS SSDに代表されるAIシステムの効率化に直結する付加価値製品の提案を強化し、収益性の向上を図ります。

他のフラッシュメモリの主要市場であるスマートフォン・PC領域は、揺るぎのない事業基盤として売上規模を維持します。そのうえで、広がりが見られるエッジAI向けの市場開拓を拡大していきます。

Phase Change

2年連続で、売上収益・営業利益ともに過去最高値を更新



収益体質の大幅改善
第1四半期OP Margin: 74%¹



26年度第1四半期で
Net cash position達成



成長投資
Inorganic含む



株主還元

KIOXIA

1 FY2026 Q1ガイダンス (2026年5月15日発表)

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 10

おかげさまで、当社は2年連続で、売上収益・営業利益ともに過去最高値を更新する実績を達成しました。

2026年度も引き続き高い利益水準を維持する見込みで、第1四半期のガイダンスでは売上高利益率（ROS）は74%となっております。有利子負債の返済も順調に進み、第1四半期末にはネット・キャッシュ・ポジションを達成する見込みです。

このたびの財務健全性の改善を受けて、2027年度の株主様への利益還元についても、前向きに検討を進めてまいります。

企業価値向上にむけた成長投資

AIメモリソリューションの進化を多角的に実現

1

現業強化

- ✓ AI市場向け製品・技術提案
- ✓ サプライチェーンの強靱化 (後工程/基幹部品)

2

研究開発成果事業化

- ✓ 水平チャネルフラッシュメモリ (HCF)
- ✓ 3D OCTRAM

3

Inorganic投資

- ✓ AIの進化に合わせた周辺事業取り込み等

AIメモリソリューションの進化

AI/DX推進

- ✓ 社内データ行政の一括と管理データ活用促進
- ✓ 製造・開発におけるAIの活用最大化

人的資本投資

- ✓ 先端技術開発を担う専門性の高い人材育成
- ✓ 多様な人材の採用・育成

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 11

生み出した資金は、株主還元と合わせて、将来に向けた戦略投資に充ててまいります。

まずは、AIインフラの根幹を支えるフラッシュメモリ・SSDのベンダーとして、市場に最適な技術をタイムリーに提案し、製品を供給することは今後も継続必須です。顧客とのパートナーシップにより、技術の実装を進めるとともに、今後も不透明さを増す調達環境を見極め、製品を確実に届けるためのサプライチェーンの強靱化を進めてまいります。

二つ目は研究開発成果の事業化です。

研究レベルでは、セルを垂直に積層するBiCS FLASH™の次の形として、水平チャネルフラッシュメモリ (HCF) の動作実証を行い、将来の3次元フラッシュメモリの進化に道筋を付けました。今後もセルの基礎的な特性の評価を進め、実現性を検証していきます。また、2024年のIEDMでは酸化物半導体の縦型トランジスタを用いたOCTRAM (Oxide-Semiconductor Channel Transistor DRAM) 技術を発表しましたが、昨年のIEDMではそれを3次元化し、高積層可能な酸化物半導体チャネルトランジスタ技術を発表しております。引き続き開発を推進し、その進捗と市場性や量産性の確認を実施しながら、事業化の検討を進めてまいります。

また、AIの進化に合わせて必要とされるメモリソリューションも進化が必要です。フラッシュメモリに留まらない領域を視野に入れつつ、最適な事業の買収を検討してまいります。

これらの成長を支える基盤は人材です。熾烈な国際競争を勝ち抜く技術力を支える専門性の高い人材を育成し、多様な人材が能力を発揮できる環境を整備します。

また、AI/DXを全社レベルで推進してまいります。AIインフラを支える存在であると同時に社内では高レベルの活用を進め、効率化、新たな価値の創出を目指してまいります。



KIOXIA

「記憶」で世界を おもしろくする

AIインフラの根幹を支える中核企業へ

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved.

当社は今後もAIの進化に合わせて必要となる機能を、当社の技術の粋を結集してお客様と共に形にし、データインフラ提供企業としての役割を拡大していきます。

私たちは単なるコンポーネントサプライヤーではなく、AIインフラの根底を支え、次の技術パラダイムシフトを牽引する中核企業として、市場の要求に確実に応え、企業価値の向上を目指してまいります。

これからの当社の飛躍に、ぜひご期待ください。ありがとうございました。

フラッシュメモリ市場と資源投入

常務執行役員 戦略統括責任者 矢口潤一郎

戦略統括責任者の矢口です。

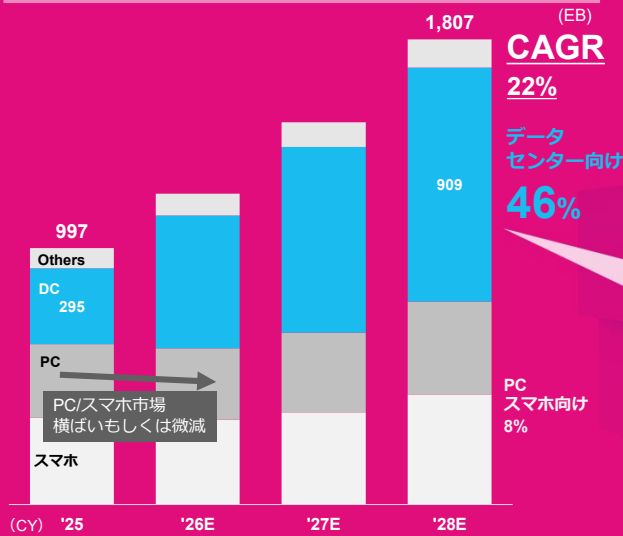
Agenda

- 推論AIがもたらす旺盛な需要と成長機会
- 資源投入の方針

私からはフラッシュメモリ市場見込みと当社の資源投入、投資戦略についてご説明いたします。

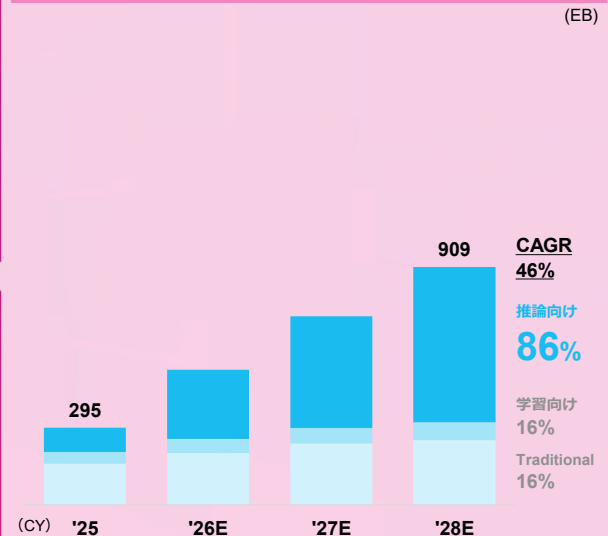
フラッシュメモリ市場

フラッシュメモリ市場(EB)



Source: Tech Insights NAND Market Report Q2 2026

データセンター向けフラッシュメモリ市場



Source: Tech Insights NAND Market Report Q2 2026

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 15

まず、NANDフラッシュメモリ市場のビット伸長予測です。

2028年までのCAGR（シーエージーアール）は20%強で、特にデータセンター向け需要が46%と大きく伸長し、AIサーバー容量の増加が市場拡大を牽引します。

特にその中でも推論AI用途のCAGR（シーエージーアール）が86%と成長の起爆剤となっています。

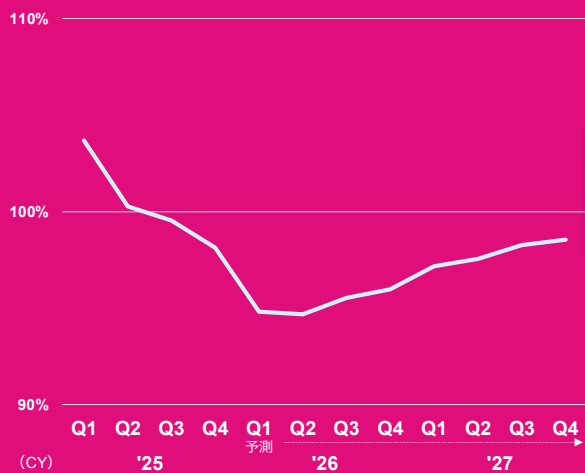
一方で、スマートフォンやPC向けのストレージ需要は足元でやや調整局面にあり、今年には微減を見込む予想もある状況です。

アプリケーションごとの需要環境には違いがあるものの、当社としては拡大するAI・データセンター向けSSD需要をターゲットとして設備投資拡充・開発を加速し、サステイナブルな成長を実現していく考えです。

需給バランスと金額市場予測

需給バランス

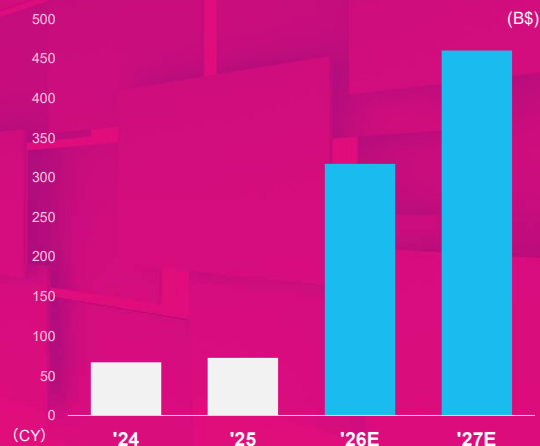
27年中はタイトな状況が継続



Source: Tech Insights NAND Market Report Q2 2026

フラッシュメモリ金額市場

ASP上昇による金額市場の急伸長



Source: Tech Insights NAND Market Report Q2 2026

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 16

次に、需給バランスとNAND市場規模です。

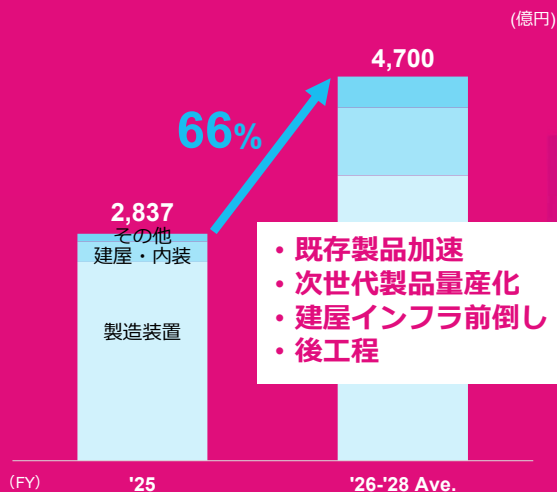
AIデータセンター向けの旺盛な需要拡大とNAND供給の律速により、需給バランスは、2027年まではタイトな状況が継続する見込みです。

また、NANDの価格は上昇傾向にあり、金額ベースの市場規模は2026年が2025年比で4倍程度となる予想で、この傾向は2027年まで続くというのがいくつかの調査会社の見立てとなっています。

生産戦略①

設備投資計画

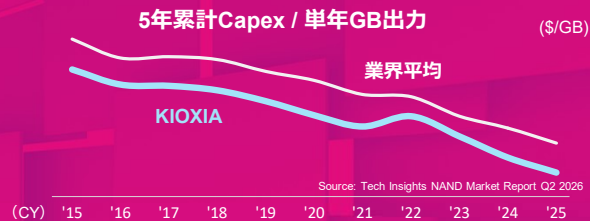
年間約4,700億円を計画



- ・既存製品加速
- ・次世代製品量産化
- ・建屋インフラ前倒し
- ・後工程

投資効率推移

高い投資効率の実現



前工程能力計画

Upside potentialの確保

- 顧客とのエンゲージメント強化
- ✓ スペース余力を確保しつつ
- LTAの締結による安定的な販売を確保



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 17

こうしたAI・データセンター需要によるNAND市場の拡大に対し、当社は設備投資を向こう3年間は年平均約4,700億円程度と、2025年度比で60%程度増加する事で現時点では計画しています。

この中には、生産設備投資だけでなくクリーンルームの内装整備やインフラの投資なども含まれており、スペース余力拡大による上方弾性を確保するべく中長期的な投資が含まれます。

LTAなどの顧客エンゲージメントに基づき、安定的な需要に対する供給体制を整備してまいります。また、引き続き業界平均に比べ、高い投資効率での投資を継続し、規律ある投資を行ってまいります。

生産戦略②

GBあたり前工程コスト

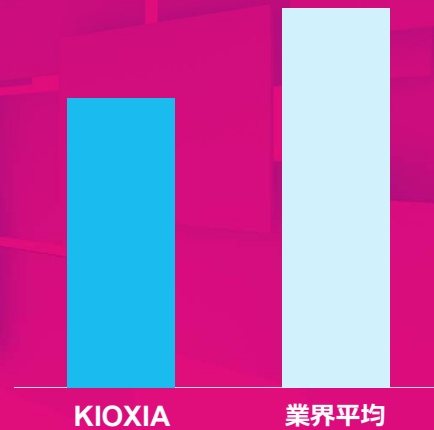
世代交代による前工程GBコストの削減



年率 **10%** 台の削減

GBあたりコスト(CY25)

効率的な設備投資によりコスト競争力を堅持



Source: Tech Insights NAND Market Report Q2 2026

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 18

前工程GBコストは、平均で年率10%台の改善を計画しております。

BiCS FLASH™のマイグレーションにより、ビット密度は各世代50%以上の改善を織り込んでおり、製品の世代交代において、我々のKPIは積層数だけでなく、2次元方向でのShrinkと積層数のベストミックスを追求し、競争力のあるコスト削減を計画しています

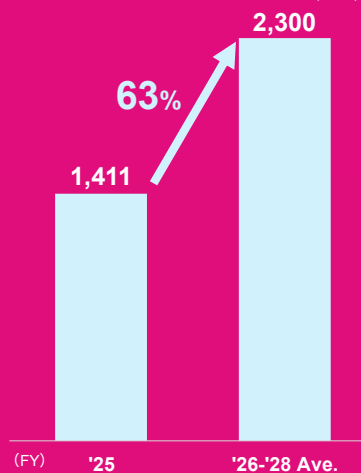
この点は後段の説明で詳しく述べます。効率的な設備投資と、世界最大級のスケールメリットを活かした生産で、業界平均よりも低いGBコストを堅持し、今後もこの優位性を維持してまいります。

研究開発戦略

研究開発費

年間2,300億円の研究開発費を投入

(億円)

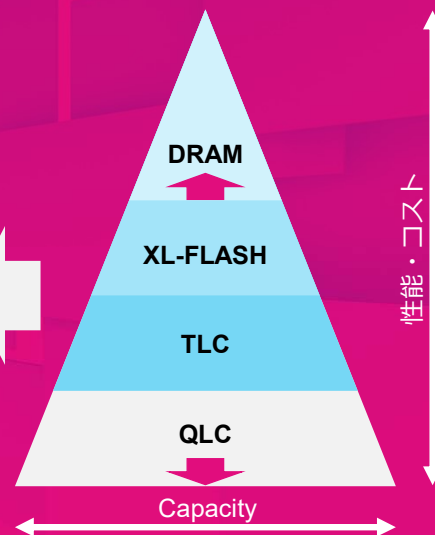


OCTRAM等
新規メモリ

第10 / 11世代BiCS FLASH™
デバイス開発

Super High IOPSなど
新規領域含む
SSD開発強化

AIの進化によるメモリ階層の進化に対応



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 19

研究開発は、当社競争力の源泉であり、開発投資も2025年度比で向こう3年間は60%増の年間2,300億円程度に、増やしていく計画です。

当社は、AI・データセンターが要求する異なる特性に合わせて、メモリ階層別の開発を進めています。

第8世代BiCS FLASH™の次世代品として、第10世代、第11世代BiCS FLASH™の開発、また、注力分野であるSSDについては、特に新しいストレージアーキテクチャー、Super High IOPS SSDの投入加速などに向けて開発費アローケーションを行います。加えて、新規メモリデバイスについては、先端研究所にてOCTRAMのデバイス特性改善と商用化判断に向けて開発を加速してまいります。さらに、ここに記載はしていませんが、研究者・技術者育成強化の一環として当社の研究開発拠点である新子安テクノロジーフロント構内に、2027年度末を目標に「(仮称)キオクシア・カレッジ」の設立を企画しています。

私からのご説明は以上です、ありがとうございました。

SSDが牽引する推論AI

常務執行役員 SSD事業部長 横塚 賢志

常務執行役員、SSD事業部長の横塚でございます。

ここからは、SSD事業の観点から、AI領域における当社の取り組みについてご説明いたします。

当社では、生成AIおよびエージェントAIの進展を重要な成長機会と捉え、SSD製品および、ソフトウェアソリューションの両面から取り組みを強化しております。

Agenda

- 2025年度からの成果
- 成長する推論AIシステムが抱える課題
- 推論AIシステムが創出するSSDの新用途
- 各課題を解決する当社最新SSDラインアップ

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 21

本日は、次の4つのポイントについて、お話をさせていただきます。

まず、最初に、2025年度の成果について振り返ります。続いて、実用化と普及が進む推論AIシステムに生じている課題についてご説明します。次に、最新の推論AIシステムが創出するSSDの新たな用途をご覧ください。最後に、これらの新しい用途を全てカバーする、キオクシアSSDのポートフォリオをご紹介します。

2025年度から現在 - 生成AI向け技術・製品の成果

“超”大容量 SSD KIOXIA LC9シリーズ



生成AIで要求される機能・仕様を
満たす大容量SSD

推論精度・速度向上ソフトウェア KIOXIA AiSAQ™



RAGの精度向上に向け、
SSDで大規模ベクタDBを構築し、高速検索する技術
NVIDIA cuVSとの連携により、
GPUを活用してインデックス構築を高速化
Milvusへの採用により、システムへの導入が加速

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 22

まず2025年度を振り返ります。

2025年度は、生成AI向けシステム関連のビジネスが、大きく進展した1年となりました。

当社もこの成長の波を捉え、データセンター、エンタープライズ、PCの各領域を中心に、幅広いお客様にご採用いただきました。そして2025年度は、今後のAIシステムの進化を見据えた重要な製品・技術を発表した年でもあります。一つ目は、大容量SSD「KIOXIA LC9シリーズ」です。

245TBという業界最大クラスの容量を実現し、急拡大するAIデータ需要に対応する製品です。すでに主要なお客様での評価・検証も完了しており、市場投入を開始しました。

二つ目は、オープンソフトウェア「KIOXIA AiSAQ™」です。

生成AIの実用化に伴い、RAGの導入が急速に拡大しています。

従来は回答精度を左右するベクターデータベースが、DRAM容量やCPUの性能に制約されるという課題がありました。

KIOXIA AiSAQ™はSSDとGPUを効率よく活用することで、この制約を大幅に低減し、数十億規模のベクターデータを、高速かつ低コストに処理することを可能にします。特に、代表的なオープンソースのベクターデータベースである「Milvus」との統合により、実用性と普及性を高めています。

さらに、GPUの活用によるベクターデータベースの高速処理を実現するソフトウェアライブラリ「NVIDIA cuVS」とも連携しました。これにより、数十億ベクター規模のデータベース構築において、CPUのみの場合と比べて、最大で約20倍のインデックス作成の高速化を実現しています。

これらの取り組みから、KIOXIA AiSAQ™を、生成AI基盤のスケラビリティと実用性を大きく向上させる重要な技術として位置づけ、今後も各種エコシステムとの統合を推進していきます。これらの実績をはじめ、2025年度はAIインフラの進化に対応する取り組みを着実に前進させた1年であり、今後の成長を支える重要な基盤を構築することができました。

成長する推論AIシステムが抱える課題

推論GPUサーバー



推論の複雑化による
KVキャッシュの増大に
GPUメモリが足りない

RAGサーバー：知識の記憶で回答精度向上



・DBサイズの巨大化に
DRAMが追い付かない
・CPUではDB生成が遅い

ストレージサーバー



容量も性能も
足りない



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 23

次に、「成長する推論AIシステムが抱える課題について」、従来の一問一答型の推論AIのシステム構成と、その進化によって生じている課題についてご説明します。

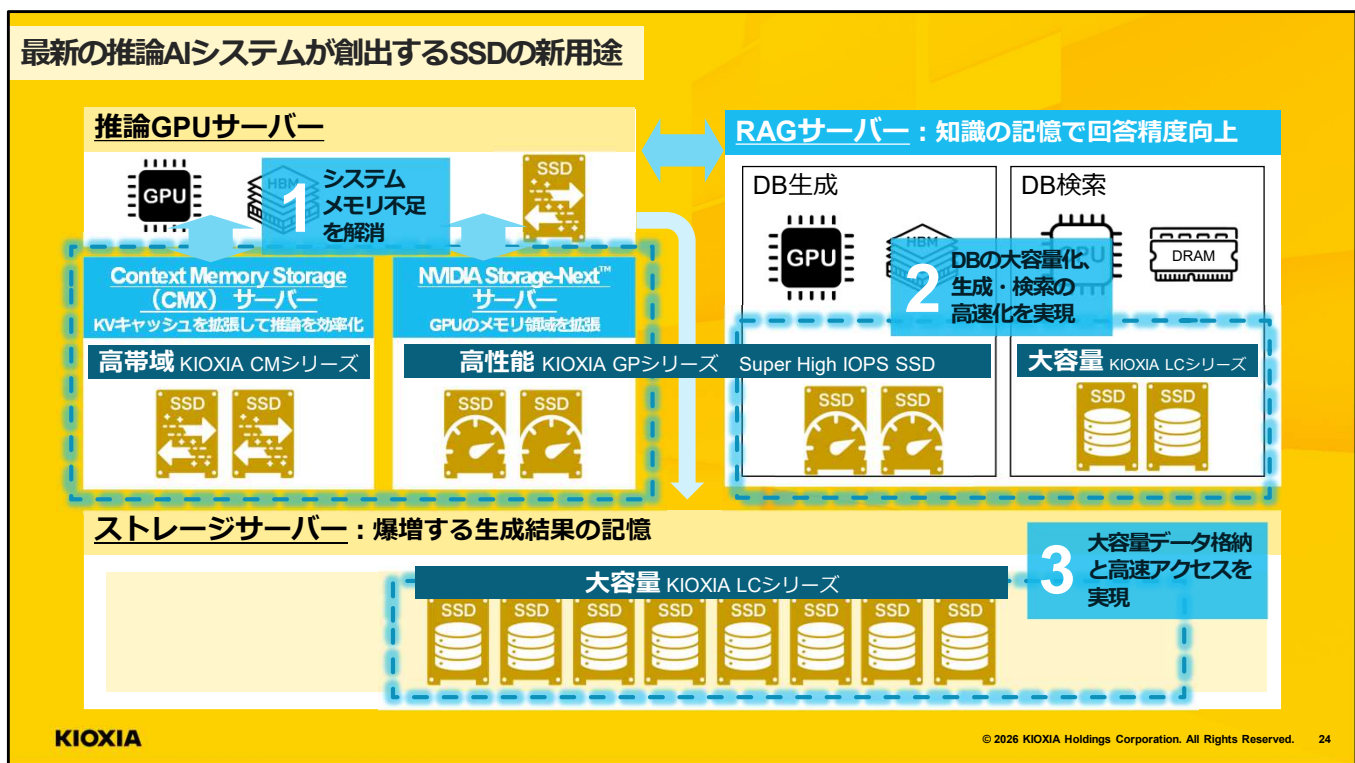
従来の推論AIシステムでは、ユーザーのプロンプトに対して単発で推論を行い、回答を返すシンプルな処理が基本です。

そのため、GPUを搭載した推論サーバーに、簡易的なRAGとストレージを組み合わせた構成で対応可能でした。扱うデータ量やアクセス頻度も比較的限定されており、コールドデータにはハードディスクドライブ（HDD）が使われるなど、ストレージ性能への要求もそれほど高くありません。

一方で、AIの進化により、この前提は大きく変わりつつあります。エージェントAIでは、AIが自律的に複数回の推論を繰り返し、外部ツールや他のAIと連携しながら処理を進めます。

その結果、システム負荷は大幅に増加します。特に課題となるのがKVキャッシュです。推論の継続と多段化によりコンテキストが急速に拡大し、GPUメモリだけではKVキャッシュを保持しきれなくなります。

これにより、キャッシュの退避や再読み込みが増え、メモリのスループットやストレージ性能が推論性能のボトルネックとなります。さらにRAGについても、データ規模の拡大とアクセス頻度の増加により、容量の制約があるDRAMや、HDDのような低速のストレージでは対応が難しくなります。このように、AIの進化に伴い、計算性能だけでなくストレージを含めたシステム全体の性能要件が大きく引き上げられています。



続いて、「推論AIシステムが創出するSSDの新用途」として、これらの課題に対する最新のAIサーバー技術の対応についてご説明します。

現在、NVIDIAを中心に様々な推論AI向けソリューションが提案されていますが、共通しているのは、SSDが極めて重要な役割を担っている、ということです。

第一に、GPUメモリ、特にHBM（High Bandwidth Memory）の容量不足への対応です。エージェントAIではKVキャッシュが急増し、GPU内に収まりきらなくなります。これに対し、Context Memory Storage（CMX）技術では、高速SSDにキャッシュを展開し、推論の効率を維持します。さらにNVIDIA Storage-Next™では、GPUがSSDに直接アクセスすることで、実質的なメモリ拡張を実現します。

第二に、RAGサーバーの進化です。大規模かつ最新データを扱うためには高速検索が不可欠ですが、従来はDRAM容量が制約となっていました。現在は高性能な大容量SSDの活用により、スケーラビリティとコストの両立が進んでいます。

第三に、ストレージサーバーの変化です。生成AIの普及に伴いデータは急増しており、高い実装密度かつ高スループットを実現する基盤として、大容量SSDの重要性が高まっています。

これらを踏まえた次世代AIシステムでは、CMXによるKVキャッシュの外部化、NVIDIA Storage-Next™による高速処理、そしてKIOXIA AiSAQ™によるDRAM容量に依存しない大規模RAGを組み合わせ、システム全体の最適化を図ります。

このように、新しい推論AIシステムは、AIの進化による構造的課題を解決するアーキテクチャであり、その中核にSSDが位置付けられています。

NVIDIA CMXサーバに対応



- KVキャッシュ用途に最適化
- 自社開発コントローラによる高電力効率の実現
- PCIe®最新世代への対応と、最新標準・規格（NVMe™, OCP）のサポート
- 液冷システムへの対応

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 25

ここからはこれら「SSDの新しい用途」をカバーする、我々の製品群をご紹介します。

ご説明してきたように、エージェンティックAIの進展により、推論AIシステムでは、データアクセス量と処理密度が飛躍的に増加しています。

その結果、特に重要になるのが、GPUとストレージ間のデータ転送性能、すなわち「帯域」です。従来のようにストレージを単なる補助領域として扱うのではなく、実質的なメモリ階層の一部として活用するためには、高スループットかつ低レイテンシーのストレージが不可欠となっています。

こうした要件に対して当社が提供するものが、「KIOXIA CMシリーズ」、TLCフラッシュメモリ搭載高帯域SSDです。KIOXIA CMシリーズは、NVIDIAが提唱するCMXに対応し、KVキャッシュ用途に適した設計となっています。

最先端のNANDフラッシュメモリを採用することにより、従来よりも、更なる大容量化に対応しており、エージェンティックAIにおける長時間・多段推論で増大するデータを効率的に保持・活用することが可能です。さらに、内製SoCの採用により高い電力効率を実現し、データセンター全体の消費電力最適化にも貢献します。

加えて、PCIe®の最新世代への対応、NVMe™やOCPといった最新規格への準拠により、先進的なAIインフラへスムーズに組み込み可能です。

また、AIシステムを中心に採用が進む液冷システムにも対応し、サーバーなど、発熱量の多い機器が高い密度で実装された環境下でも安定した性能を発揮します。このようにKIOXIA CMシリーズは、推論AIシステムの高帯域なデータ転送を支える中核コンポーネントです。



NVIDIA Storage-Next™ に対応 Super High IOPS SSD

- 専用SoCとXL-FLASH™を組み合わせることで、これまでにはない高性能を実現
- 100M IOPS以上の次世代AI処理を実現する圧倒的な処理性能と低レイテンシ
- フラッシュメモリをHBMの拡張・補完領域として活用し、高性能とコスト効率を両立

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 26

一方で、エージェントAIでは、推論の反復回数増加により、極めて細かく、高頻度なデータアクセスが発生します。

この領域では、レイテンシーおよびIO性能のさらなる向上が重要となっており、当社は従来のSSD技術に加え、新たなアーキテクチャによる大幅な性能向上に取り組んでいます。

こうしたニーズに応えるのが、「KIOXIA GPシリーズ」、XL-FLASH™搭載 高性能SSDです。KIOXIA GPシリーズは、NVIDIA Storage-Next™に対応し、GPUとの直接連携を前提とした設計となっています。

専用NANDフラッシュメモリ、XL-FLASH™と、512バイト単位という一般的なSSDよりも細かな粒度でのアクセスを可能にする専用SoCを組み合わせることで、100M IOPS以上が必要とされる次世代AIシステムの要求性能に対応した、極めて低いレイテンシーと高IOPS性能を両立しています。

この性能により、SSDをHBMの拡張・補完領域として活用することが可能となり、メモリ制約の緩和によって、新しいAIシステム構成を実現します。KIOXIA GPシリーズは、推論AIシステムにおける「低レイテンシー・高IOPSデータアクセス」を担う主力製品です。



次世代AIストレージ基盤を実現

- 業界最大級の容量となる、第8世代 BiCS FLASH™ 2Tb QLCを採用
- 高度な設計・実装技術により、小型NANDパッケージ内に32枚積層を達成
- 標準フォームファクタE3.Lで245TBの“超”大容量を実現、TCOの最適化に貢献
- 量産出荷開始

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 27

さらに、エージェントAIの進展により、もう一つ無視できない課題が「データ量の急増」です。

推論の多段化・長文化に加え、生成データそのものが爆発的に増加する中で、システム全体として、より多くのデータを効率的に蓄える能力が求められています。

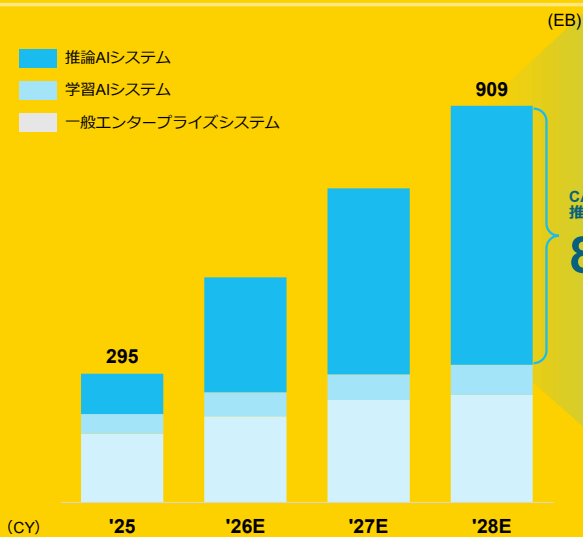
ここに対応するのが、「KIOXIA LCシリーズ」、QLCフラッシュメモリ搭載大容量SSDです。

KIOXIA LCシリーズは、第8世代BiCS FLASH™の2Tb QLCを採用し、高度なパッケージ技術により、小型パッケージ内にメモリチップを32枚積層しています。標準フォームファクタE3.Lで245TBという大容量を実現しており、この度、量産出荷を開始。超大容量サーバーで使用されています。この高密度化により、限られた設置スペースの中で記憶容量を大幅に拡張でき、データセンター全体の効率改善、TCOの最適化にも貢献します。

また、推論AIシステムで増加する大規模データセットやコールドデータを低コストで保持する基盤としても適しています。KIOXIA LCシリーズは、AIインフラのスケール拡張を支えるストレージ基盤を実現します。

推論AIシステムの成長を支えるキオクシアのSSDラインナップ

データセンターSSD向けNANDフラッシュ市場成長予測



KIOXIA CMシリーズ
TLCフラッシュメモリ搭載 高帯域SSD



KIOXIA GPシリーズ
XL-FLASH™搭載 高性能SSD
Super High IOPS SSD



KIOXIA LCシリーズ
QLCフラッシュメモリ搭載 大容量SSD

先ほど矢口からご説明した通り、フラッシュメモリ市場では、推論AIシステムを中心に需要の拡大が顕在化しています。

特にエージェントAIを前提とした推論AIシステムでは、KVキャッシュ、RAGのベクターデータ、推論履歴など、扱うデータ量が飛躍的に増大します。

当社はこの大きく変化し、急速に拡大する市場に対し、KIOXIA CMシリーズによる「高帯域データ転送」、KIOXIA GPシリーズによる「超低レイテンシー・高IOPS性能」、KIOXIA LCシリーズによる「超大容量データ蓄積」、というポートフォリオを通じて、推論AIシステムの性能向上とスケーラビリティの実現を支援します。AIシステムの進展に伴い、ストレージは単なる保存装置ではなく、システム全体の性能を左右する重要な構成要素へと進化しています。

当社はさらに、最先端のNANDフラッシュメモリ技術およびSSD技術の開発に加え、ストレージとメモリの連携を含めたトータルソリューションの提供を強化しています。これにより、次世代AIインフラ市場における競争力の強化と中長期的な成長につなげてまいります。私からのご説明は以上です、ありがとうございました。

第10世代BiCS FLASH™における テクノロジーリーダーシップ

執行役員 メモリ事業部長 井上 敦史

執行役員・メモリ事業部長の井上でございます。

私からはAI時代のBiCS FLASH™開発戦略と第10世代BiCS FLASH™のステータスを中心にご紹介いたします。

Agenda

- AI推論システムの進化と二軸戦略による対応
- 第10世代BiCS FLASH™の技術優位性
- 第10世代BiCS FLASH™の開発ステータス

KIOXIA

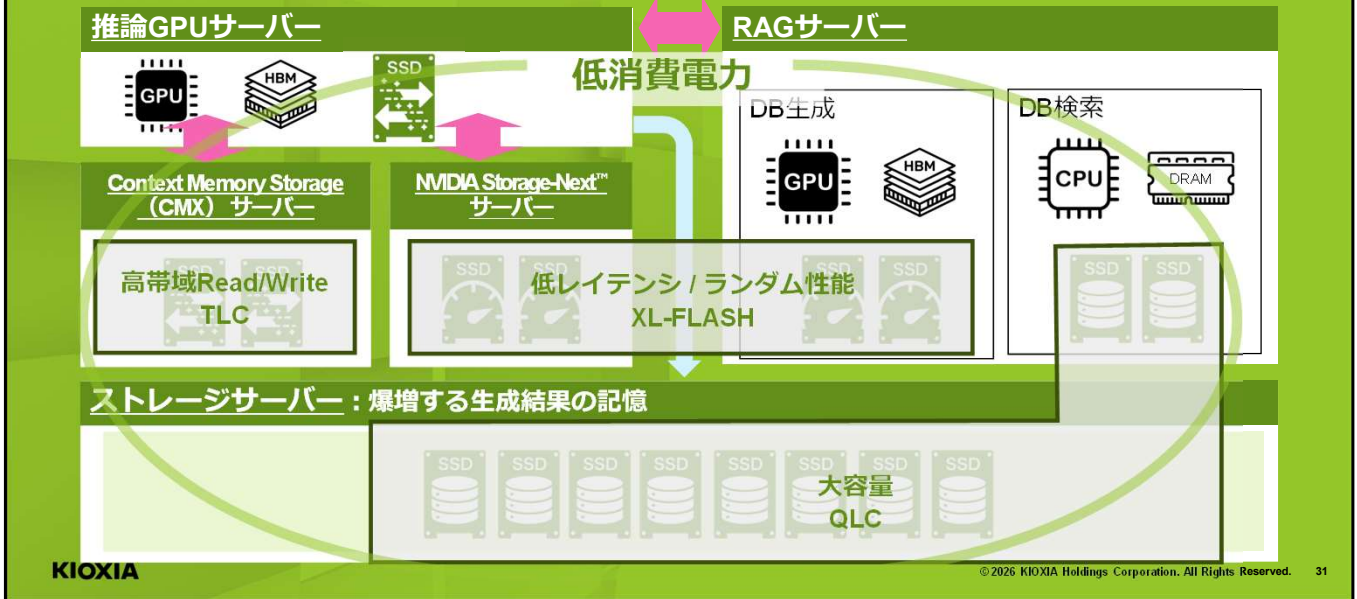
© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 30

本日お話をさせていただく内容です。

最初に、AI推論システムの進化に対する当社のNAND開発戦略について、次に 当社最先端の第10世代BiCS FLASH™の技術優位性について、最後に第10世代の開発ステータスについてご説明いたします。

AI推論システムの進化とSSD/NANDへの要求

AI推論処理の進化とともにSSDへの要求が多様化
高電力効率 (=低消費電力)とともに各用途に最適なメモリ製品を開発



メモリ事業戦略についてご説明いたします。

先ほどSSD事業戦略のパートで申し上げた通り、生成AIが進化する中で、お客様のSSDそしてNANDフラッシュメモリに対する要求も多様化しています。

当社は、急速に拡大する推論市場に対し3つの領域に焦点を当てて、製品開発を推進してまいります。

第一に「推論処理の効率化」に対する対応です。

左のContext Memory Storageサーバーでは過去の計算結果の記憶であるKVキャッシュを高速にHBMとスワップする必要があるため、高帯域な読み出し・書き込み性能が求められます。この領域においてはTLC NANDが最適なソリューションです。

第二に「回答の精度向上」という要求への対応です。

図の中央右に示すRAGサーバーでのベクターデータベース生成などでは、低レイテンシー、そして優れたランダム読み出し性能が求められます。この領域においては、SLCあるいはMLCベースのXL-FLASH™が最適なソリューションです。HBMの拡張用途として、高いIOPS性能を持つ“超”高性能SSD「KIOXIA GPシリーズ」に搭載します。

そして第三に、AIが生成する「爆発的なデータ量」への対応です。RAGサーバーでのデータベース検索やエージェントAIなどにより爆発的に増大する生成データ等の格納先である大容量SSD向けには、大容量のQLC NANDの開発を推進いたします。

これら3つのアプローチ全てに共通する要求が「単位電力あたりの性能」、すなわち電力効率です。AI時代のデータインフラにおいて、電力効率を向上させる「低消費電力」は極めて重要となります。当社が開発する3次元フラッシュメモリBiCS FLASH™は、これまで市場から求められてきた「コストの追求」という基本価値に加え、「大容量」、「高性能」、「高電力効率・低消費電力」という価値を加えることを主眼に開発を推進してまいります。

BiCS FLASH™ロードマップ

二軸戦略を継続・拡張

最適なCapexでGB生産量を最大化し、様々な用途に対応するNANDを提供



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 32

それでは次に、その中でも「大容量」「高性能」を実現するための道筋を、当社BiCS FLASH™ロードマップに沿ってご説明いたします。

今後の製品開発のロードマップの起点となるのが、第8世代BiCS FLASH™です。第8世代はメモリセルを形成したウエハーとCMOS回路を形成したウエハーを別々に加工し貼り合わせることで熱処理を最適化できるCBA技術を採用していることが特徴です。この技術により、業界最高水準の性能、容量、電力効率を実現したことで、多くのお客様から非常に高い評価を頂いております。

現在、多数のプロジェクト向けに量産を拡大しており、2026年度末には、キオクシアのGB出力の約80%がこの第8世代へと切り替わる計画です。加えて、第8世代では、他社に先駆けて32枚のダイを1つのパッケージに封入する技術を確立しました。

この技術により、1つのBGAパッケージで8TBという大容量化を達成し、生成AI市場向けに245TB SSD「KIOXIA LC9シリーズ」を提供することが可能となりました。

この第8世代をベースとし、AI時代の多様なニーズに応えるため、昨年より当社では製品開発において「二軸戦略」を掲げています。第一の開発の軸は右上に伸びる「大容量・高密度」の追求です。

第10世代BiCS FLASH™、そしてその先の第11世代BiCS FLASH™では、従来通り、高積層化と平面方向の縮小を組み合わせることで、高ビット密度、大容量製品を実現し、主にエンタープライズ・データセンターSSD市場のニーズに応えてまいります。

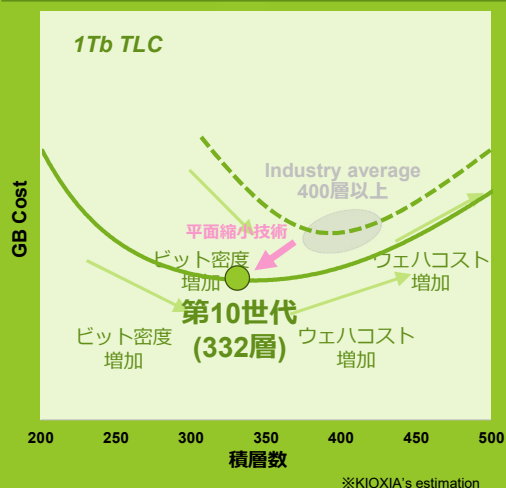
第二の開発の軸は、「高性能」の追求です。第9世代BiCS FLASH™、その先の第Y世代では、積層数を抑えたセル技術と最新のCMOS技術を組み合わせることで高性能を実現し、主にAI搭載のPC・モバイルデバイス市場のニーズに応えてまいります。

本日は、これら二軸戦略の中でも、主に次世代のAI推論市場をターゲットとした第10世代BiCS FLASH™のステータスを中心にご紹介いたします。

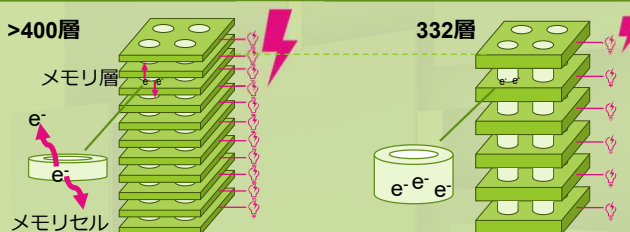
第10世代BiCS FLASH™技術優位性（積層数）

最適な積層数選択によりコスト競争力、消費電力向上を実現
チップサイズ、投資額、電力効率のバランスを重視

第10世代BiCS FLASH™での積層数とコストの関係



332層を選択するメリット



	Stacking Layer	GB Cost	Power Efficiency	Cell Reliability
332層 vs >400層	About <23%	About <10%	About >10%	About >35%

※KIOXIA's estimation

※KIOXIA's estimation

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 33

それでは当社第10世代BiCS FLASH™の技術優位性について2ページにわたり、ご説明いたします。

まずは積層数とGBコスト、信頼性、電力効率の関係についてです。左の図を用いて説明させていただきます。従来3次元フラッシュメモリでは、高積層化によってビット密度を高め、コスト削減を実現してきました。

しかし過度に積層すると設備投資や工程数が増え、結果としてウエハーコストが増加するという課題が顕在化します。第10世代では第8世代同様に高積層化による低コスト化だけではなく、バランス良く平面縮小技術を取り込むことで、業界平均に対し少ない積層数でGBコストの最適化を実現しています。

さらに、過度な高積層化は性能面においても2つの懸念を生じさせます。

一つは電力効率の悪化、もう一つは信頼性の懸念です。

左の構造のように、過度な高積層化、例えば400層以上では、データを読み書きする際に活性化するメモリ層の数が332層に比べ増えるため、消費電力が増加する傾向にあります。

もう一つの懸念はメモリスセルの信頼性です。400層以上のように積層数を増やすためには、メモリ層を薄くする必要がありますが、保持できる電荷が減り、メモリスセルの信頼性が悪化する傾向にあります。

第10世代では最適化された332層を選択することで電力効率の向上およびメモリスセルの信頼性が確保できました。

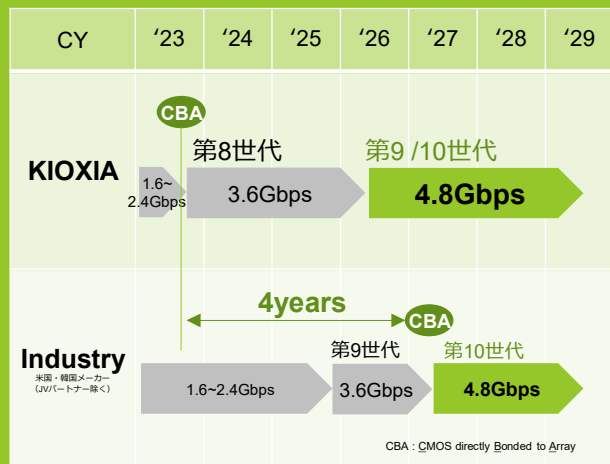
右下の表は、332層の第10世代と当社が400層以上で製品を開発したケースとの比較です。積層数を332層に抑えることによって試算ではGBコストが約10%低くなります。また、電力効率では約10%、メモリスセルの信頼性は約35%優位になります。

このように、当社の332層第10世代BiCS FLASH™は、単純に高積層化を追うのではなく、GBコスト、メモリスセルの信頼性、電力効率など多角的視点から最適化を図ることで、市場でも非常に競争力の高い製品になると考えております。

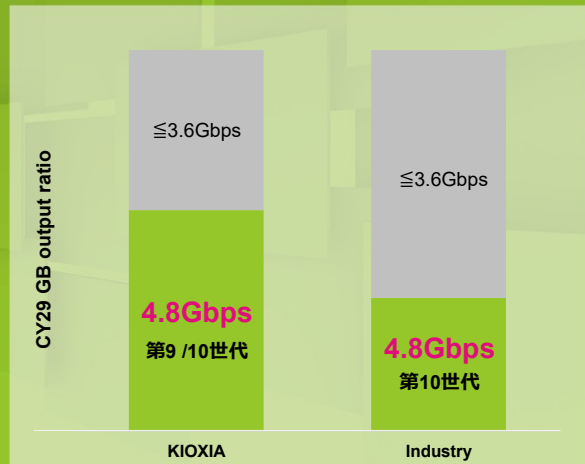
第10世代BiCS FLASH™技術優位性（CBA）

CBA技術の早期導入により将来的にも他社より優位に高性能品を供給可能

4年以上先行したCBA導入



※KIOXIA's estimation



※KIOXIA's estimation

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 34

そして、二つ目の技術優位性はCBAです。

第10世代でも先行導入したCBA技術を継承することで、第8世代に引き続き、重要性能指標の1つのインターフェース性能においても業界に対して優位性を維持することができます。左の図に示す通り、当社は第8世代BiCS FLASH™からCBA技術を導入しており、これは業界平均に比べ4年程度早い市場投入となります。

その結果、3.6Gbpsのインターフェース性能を2年先行して実現することができました。同様に4.8Gbpsのインターフェース性能は第9世代、第10世代で実現することで、約1年先行して実現できる見込みです。

このように早期から高速インターフェースの製品を展開することで、当社の製品ポートフォリオは差別化することができます。その結果、右の図に示される通り、例えば2029年の時点では、当社の製品構成比における4.8Gbpsに対応する製品の割合は、業界平均よりも約20%程度高くなると予想しております。





これにより、将来の生成AI市場に向けて高帯域が求められるPCIe® Gen.6やGen.7対応の高性能SSD、ならびに高速モバイルアプリケーションといった成長市場のニーズに的確に応えられると考えています。

第10世代BiCS FLASH™開発状況

第10世代BiCS FLASH™の開発は計画通り進行中

第10世代
1Tb TLC

2026年夏サンプル
提供開始予定

Bit Density		+59%
Interface Speed		+33%
Read Throughput		>15% better
Write Throughput		>30% better
Read Power Efficiency		>40% better
Write Power Efficiency		>30% better

Percentage improvements compared to BiCS FLASH™ generation 8



PCIe® Gen.6に対応した
高帯域TLC-SSD

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 35

最後に第10世代BiCS FLASH™の開発状況を説明いたします。

第10世代BiCS FLASH™の1Tb TLC製品の開発は順調に進行している状況です。現在、開発の最終フェーズである信頼性試験を行っており、今年の夏頃のサンプル出荷を予定しています。左の表に示す通り、主要性能において第8世代からの着実な向上を確認しました。

ビット密度は59%向上、インターフェーススピードは33%、データの読み出しスループットは15%以上、書き込みは30%以上、それぞれ向上いたしました。

さらに昨年の経営方針説明会において10%の向上予定と報告させていただいた電力効率については、読み出し時で40%以上、書き込み時で30%以上という大幅な電力効率向上を達成しています。

第10世代BiCS FLASH™の1Tb TLCは、キオクシアの次世代SSD「KIOXIA CMシリーズ」をはじめとする、高性能・高帯域SSD製品に搭載され、AIの進化を支える競争力の高いNAND製品として、市場の要求に応えていきます。

私からのご説明は以上です、ありがとうございました。

成長を実現させる財務戦略

副社長執行役員 財務統括責任者 河村芳彦

財務統括責任者の河村でございます。成長を実現させる財務戦略についてご説明いたします。

Agenda

- 利益創出力の高度化
- 事業の構造的な変化
- 最高水準の資本効率の達成
- キャッシュ創出力の最大化と財務改善
- キャピタルアロケーションと株主還元方針

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 37

トピックは以下の5点あります。

1点目は、利益の創出力の高度化について。

2点目は、事業構造、収益構造が大きく変化したということについて。

3点目は、資本効率の向上に向けた様々な活動について。

4点目は、キャッシュの創出力の最大化と、それに伴う財務体質の改善、具体的にはバランスシートが大きく改善したということについて。

最後に5点目は、キャピタルアロケーションと株主様への還元の方針についてご説明いたします。

利益創出力の高度化

データセンター向け需要を捉え、構造的に安定した収益モデルへ
高成長/高収益分野へのCapex、R&D、人的資源への投資により収益の質を高度化

市場



- ✓ 戦略的なデータセンター向け製品の拡大
- ✓ 複数年LTAによる安定収益構造を実現

ポートフォリオ

データセンター向け売上比率

60%以上(～FY28)

技術リーダーシップ



- ✓ AIシステムへの高付加価値製品 (Super High IOPS SSD他)の提供
- ✓ 大容量QLC・高性能製品 (4.8Gbps)の拡大

研究開発費

先端開発中心に

+60%以上(対FY25)

コスト競争力



- ✓ コスト競争力の高い次世代製品へのマイグレーション加速

マイグレーション

第8世代BiCS FLASH™比率

80%超'(FY26末)

KIOXIA

1 生産GBベース

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 38

まず利益創出力の高度化について、データセンター向けの需要を的確に捉え構造的に安定した収益モデルへ移行しています。これは従来のコンシューマー向けが中心で、サイクルの影響を非常に強く受けたモデルから、インダストリー、エンタープライズ向けを中心に安定的な収益モデルに移行しつつあるということです。この高成長、高収益分野への重点投資を継続して行っていくということで、具体的には重点投資分野が三つあると考えています。一つ目は設備投資（Capex）、研究開発投資（R&D）、それから人的投資です。これらを通して利益の質をさらに高度化していくことを考えています。

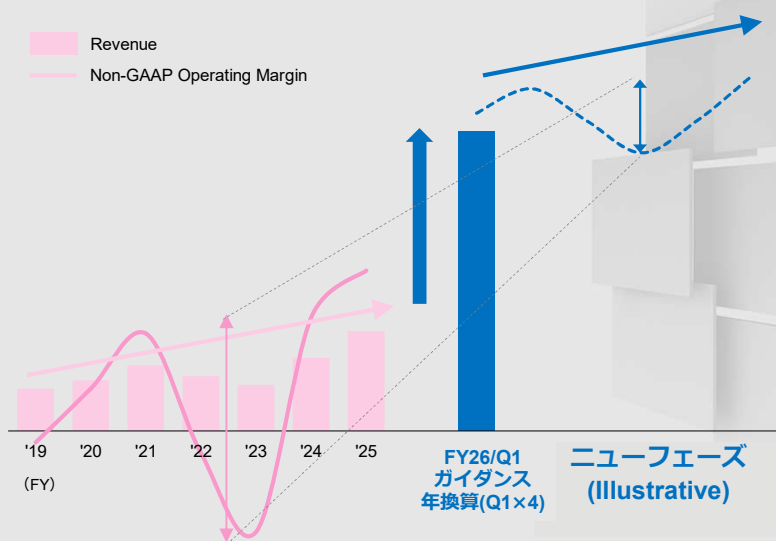
高い質の利益とは、新しい技術を使って新しい製品を市場に投入して得た収益、または新しい市場を開拓して得た収益と考えています。具体的には、スライドの左からご覧ください。まず、市場が大きく変わったということです。戦略的にデータセンター向け製品の拡大を図っており、かつ複数年のLTAによって収益構造を安定化していきます。ポートフォリオベースでは、2028年度に向けてデータセンター向けの売上比率は60%以上を計画しています。

次に技術リーダーシップについて、AIシステムへの高付加価値製品の投入ということで、Super High IOPS SSD他の新製品の投入を予定しています。また、大容量QLC製品や高性能製品（4.8Gbps）の拡大にも取り組みます。研究開発投資（研究開発費）は先端開発を中心に強化しており、2025年度に対して60%以上増加させることを考えています。

次に、よりコスト競争力の高い次世代の製品へのマイグレーションを加速しています。具体的には第8世代 BiCS FLASH™のGBベース出荷量が2026年度末には全体の80%を超えるという目標で展開しています。

事業の構造的な変化：安定的で高収益な成長へ

売上・利益率の構造的な向上と収益の安定化



事業構造変化のドライバー

市場	Consumer市場にけん引される周期的な成長からAIインフラ市場による安定的成長へ
ビジネスモデル	1年LTAから複数年のLTA締結による売上確度・安定性の向上
技術リーダーシップ	NANDの技術優位性の堅持 (e.g. CBA) AIインフラ市場への高付加価値SSD製品の投入
効率的な投資とコストカ	技術リーダーシップと規模の経済による、業界トップクラスのコストカと投資効率の堅持

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 39

ここでは収益の構造、利益の構造が変化したことをご説明します。左側の折れ線と棒グラフをご覧ください。左半分は、2019年度から2025年度に渡ってピンクの棒グラフが売上高を、折れ線グラフがNon-GAAP営業利益率を示しています。ご覧の通り、この期間は非常に激しいサイクルであったことがご理解いただけると思います。

右半分のブルーのところでは、この極めて激しい状況が変わったということを示しています。まず真ん中のブルーの棒グラフは、収益の規模が絶対値で以前のピンクに比べて何倍かになっていることがご覧いただけると思います。これは視覚的に示していますが、この棒グラフの縮尺は、本年5月に公表した2026年度 第1四半期のガイダンスを単純に4倍して年換算したものです。今後もこのような傾向が続くことも考えられ、右側に矢印でその成長のイメージを示しました。今後もサイクルはあり得ると想定していますが、成長曲線が上にシフトしましたので、サイクルと上方シフトの両方を合成すると、谷が非常に浅くなってきているということをご覧いただけると思います。

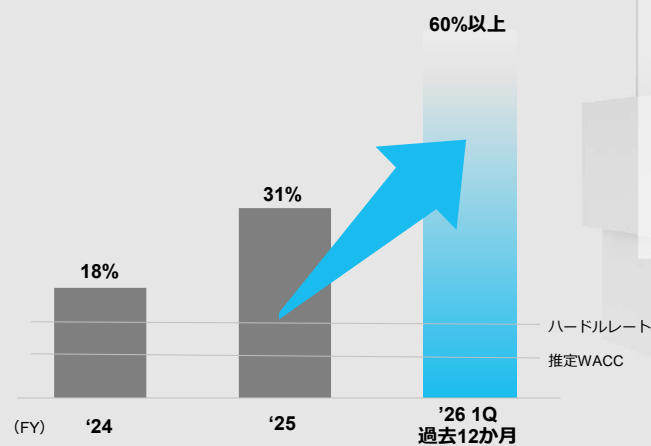
構造変化のドライバーを右側に四つ示しました。一つは市場がコンシューマーからインダストリー、エンタープライズに移ったということです。それからビジネスモデルも短期の1年の契約中心から、複数年のLTAが締結されるようになり、収益構造が安定し、これに基づいて積極的な設備投資ができるということになります。

それから技術のリーダーシップで、NANDの競争優位性を確保、堅持いたします。井上からご説明したように、例えばCBAのような技術優位性を生かした新製品を投入します。それからAIインフラ市場への高付加価値SSDの投入ということで、次々と新製品を投入していきます。最後に効率的な投資とコストカということで、技術リーダーシップと規模の経済で業界トップクラスのコスト構造と投資効率を維持していくことを推進していきます。

最高水準の資本効率の達成

厳格な投資判断基準により資産効率の改善を図り、構造的に高ROICモデルへ転換

ROIC



*ROIC= 税引後営業利益 / (資本+Net有利子負債)

製造業トップレベルのROICを目指す

- ✓ 高成長・高収益分野へのCapex、R&D、人的資源への集中投資
- ✓ 投資基準(ハードルレート)以上の高収益案件に絞った厳格な投資判断

EPS、一株当たりFCFの大幅な向上

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 40

次に、このような活動を通して、業界最高水準の資本効率の達成を目指していきます。厳格な投資判断基準によって投資効率、資産効率のさらなる改善を図り、構造的な高いROIC (Return on Invested Capital) モデルへ転換していきます。

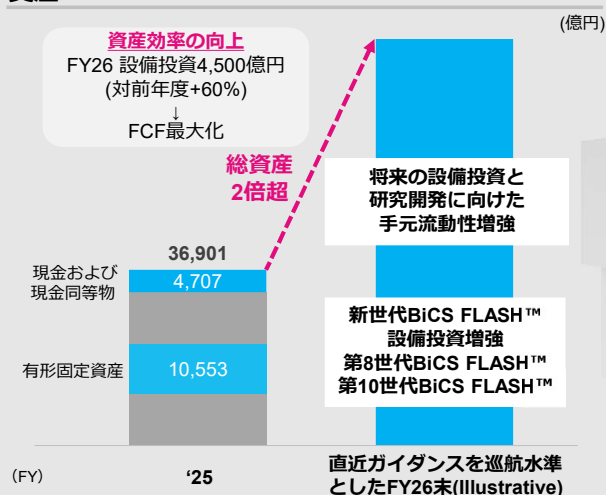
左のグラフをご覧ください。三つの棒はROICを示しており、それぞれ左から2024年度が18%、2025年度が31%、そして昨年度2025年度のQ2から本年度2026年度のQ1までの12か月では60%以上ということで、おそらく業界だけではなく、日本の製造業でも最高水準のROICとなってきています。

このトップレベルのROICを目指しかつキープするということで、先ほど申し上げたCapex、R&D、人的資源への集中投資を継続して行っていきます。キャッシュは潤沢に出てきますが、引き続き高いハードルレートを堅持し、規律の高い厳格な投資判断をしていきます。それによってEPS、および1株当たりフリー・キャッシュ・フローの大幅な向上を図っていきます。

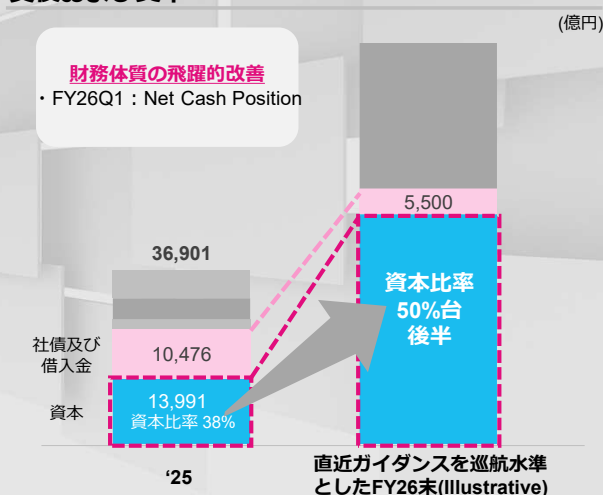
キャッシュ創出力の最大化と財務改善

成長投資と財務健全性を両立し、更なる企業価値向上へ

資産



負債および資本



KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 41

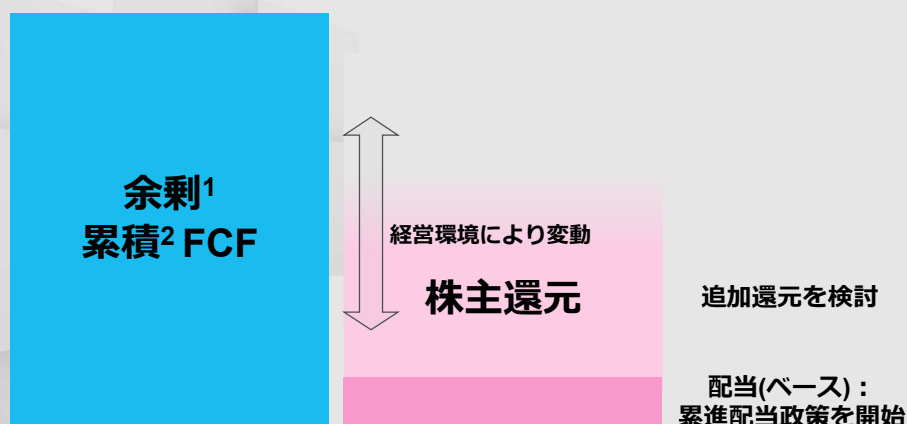
こちらはバランスシートを示しており、どのように変わったかということをご覧いただけます。キャッシュ創出力の最大化と財務改善として、成長投資と財務健全性の両立を図ります。一般的にはこの二つはトレードオフの関係にありますが、当社は両方を同時に追求し、それによってさらなる企業価値の向上につなげることを考えています。左側のグラフが資産、右側のグラフが負債と資本を示しています。左側の資産をご覧ください。左側が2025年度です。それから右側はまだ数字が確定しないこともあり細かい数字が入っていませんが、2026年度末にこのようになるという想定バランスシートです。

左側の2025年度は、総資産が3兆6,901億円ありました。これが今の計算では年度末には2倍超の規模になります。倍以上になる大きな理由は右側に二つ書いてあり、下に記載している順に、設備投資を急速に強化する部分が資産に乗るということです。それから手元流動性も、将来の安定経営に向けてある程度確保する必要があり、その部分に乗るということで、総資産が倍以上になるということが一つ大きなポイントです。

右側は負債および資本ですが、これも当然大きく伸びますが、ブルーでハイライトしているように資本比率が非常に厚くなるということです。2025年度末は38%であった資本比率が50%台後半と、60%近くまで上がるということで、バランスシートが非常に強固になり、盤石な経営基盤になっていくということです。強固なバランスシートが株主還元に向けた基礎となっていくと考えています。

キャピタルアロケーションと株主還元方針

企業価値向上に向けた規律ある資本配分



- 1 企業価値向上に向けた資本配分の優先事項
- ・ 将来のCapex、R&D、人的資源への投資に必要な十分な流動性の確保
 - ・ 財務健全性の強化
 - ・ 運転資本およびその他確定支出の確保
- 2 当社は複数年にわたる累積FCFで還元を検討します。

KIOXIA

© 2026 KIOXIA Holdings Corporation. All Rights Reserved. 42

キャピタルアロケーションと株主還元ということで、これから株主の皆さまにどのように積み上がったキャッシュを還元していくかをいろいろと検討しています。このスライドでお示しする余剰フリー・キャッシュ・フローとは、その前段階で流動性の確保や、将来に向けた成長投資等を考慮した上で、ネットに出てくるフリー・キャッシュ・フローですが、これを積極的に株主様に還元することを考えています。

今の時点で具体的にいつから何%程度で配当、あるいは自社株買いをするか等々のことは申し上げられませんが、創出したネットのフリー・キャッシュ・フローを原則として二つの分野に配分しようと考えています。

一つは成長投資。これは事例としてはAIメモリソリューションの進化に資する投資等が考えられますが、その残りの部分が株主還元になります。例えば50%が成長投資に回った場合には50%を株主還元するということになります。還元の内容は配当と自社株買いの二つになります。ただ、どのような比率で成長投資に回すか、あるいは還元に戻るかということは、そのときの経営の状況で動きます。仮に成長投資等が大きければ還元の方が若干減る可能性がありますし、逆に成長投資等が発生しない等のことがあれば、還元が大きくなるということで、そのときの経営の状況によって動きます。場合によっては圧倒的な比率を株主還元に戻すということも考えています。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

KIOXIA